

# 図書館員が選ぶ この一冊

59

『本と鍵の季節』 集英社  
米澤 穂信／著

高校2年生の堀川次郎は、松倉詩門と共に図書委員を務める。背が高くかっこいい松倉は、皮肉屋だがいいやつで、気が合う。ある日、先輩から「祖父の遺品の開かずの金庫の番号を探り当ててほしい」と頼まれ、図書委員ならではの知識で暗号を解読。その後も何かと謎を解くたびに2人の信頼関係は深まっていく。



放課後の図書室での2人の軽妙な会話から始まる、謎解き話は全部で6編。終盤には松倉の抱える事情が明らかになり、切ない思いと友情を感じて胸が熱くなる。続編に『栞と嘘の季節』がある。